

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102816
法人名	有限会社サクラコーポレーション
事業所名	悠久の里高松西
所在地	香川県高松市飯田町1334番地4 (電話) 087-832-8333

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年9月7日	評価決定日	平成19年10月24日

【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 3月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	12人 常勤 10人、非常勤 2人、常勤換算 5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 1,500円	その他の経費(月額)	12,000円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
1日当たり 1,200円				

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.8歳	最低	71歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	翼医院、三好内科医院、坂東歯科クリニック、医療法人財団博仁会 大林病院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは幹線道路から少し離れており、田園風景の中に、平屋で落ち着いた環境にある。玄関を入ると、左右に1ユニットずつあり、管理者を中心に各ユニットの責任者との連携が密に取れている。また、職員は明るく、落ち着いた雰囲気、効果的なケアが行われている。特に、利用者の個別性を尊重し、本人の生活リズム、ペースを大切に支援され、ホーム内は明るく、清潔でゆったりと自由に過ごしている。健康管理支援については協力体制があり、安心して日々の暮らしができています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価についての的確にまとめられ、記録に残しており、改善に取り組んでいる。記録、書類面での改善項目が主であり、改善されている。引き続き、よりよい方法があれば取り組んで欲しい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、各ユニットごとに職員全員で意見を出し、今後取り組んでいく項目を明らかにしており、前向きに取り組んでいる姿勢がうかがえる。これを実践につなげていく取り組みに期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの行事予定、地域の行事に参加等について討議され、更に、苦情対応等については、「第三者委員」を自治会長に依頼し了解を得る等、進めている。家族会から、早期に予定を知らせてくれると行事に出られるとの要望があり、取り組んでいく方針である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時を利用して意見を聞き、また、2か月に1回、細かく項目ごとに状況を記入した手紙で報告しており、要望、意見が出されたときは改善方法を検討し、ケアに反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会との連携が取れており、祭り、花火大会等に参加している。地元の小・中学生が訪問してくれる。近隣とのかかわりについては、野菜を届けてくれたり、米を地元の方から分けてもらう等、地域で孤立することなく連携が取れている。今後、地域包括支援センター、市町との連携を密にするように取り組んで欲しい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員の笑顔で接する態度の中に、「気配り、目配り、心配り」の理念が実践されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員共に理念を理解し、日々のケアの中で実践されている。心配りができた時に、信頼関係が築かれる。よりよい介護ができるように日々取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域行事の案内をいただいたり、また、文化祭に利用者の作品を出品している。ホームの敬老会に、地域の高齢者を招待し、参加してもらおう等、地域の人たちとの交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており、自己評価については、責任者を中心に、職員の意見を聞きながら行っている。前回の改善点に前向きに取り組まれ、特に、書類関係は改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回を重ねるごとに、具体的なことへの意見もいただき、サービス向上につなげている。苦情対応については、「第三者委員」として自治会長に依頼し、了解を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議等に出席してもらう等、連携をもっている。	○	地域包括支援センターとの連携を更に密にし、情報の共有化を図り、市町との関わりを常に心がける姿勢が求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2か月に1回、担当職員が家族に報告している。内容として、医療報告と近居近況報告に分け、特に、近況報告については様式が工夫され、食事、排泄、入浴、活動、睡眠、その他の項目を定め、具体的に記入し報告されている。悠久の里新聞を年4回発行し、送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への報告の中から、食事量が減少してきていることについて、歯科医にかかり義歯を作っているという意見があり、うまくあっていないことが判明し、改善されたことがある。家族の積極的な意見と職員との話し合いの結果と思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタート当初は異動が多かったが、3年経過した現在は、異動が少なくなっている。職員も馴染みの関係の中で、楽しくケアに当たっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の認知症研修には計画的に参加している。その他に自主的な研修参加についても受け入れており、参加費用については個人負担で、参加日は勤務扱いとし、パート職員で対応している。職員は積極的に研修に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	後からスタートした近隣のホームが、いろいろ教えて欲しいと来られ、それ以来、相互に訪問等の活動をとおして、サービス向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケースによっては、ホームを見学、また、希望により、家族と共に宿泊し、本人が安心、納得の上でのサービス利用ができるように取り組んでいる。更に、職員が家庭を訪問し、馴染みの関係も事前にとっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買い物に行った時など、利用者がキュウリの選びかたを教えてください、人生経験豊かな利用者から、日常生活の中でいろいろと教示してくれ、学ばせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何事も決して強制することなく、利用者の生き方、希望を大切にしている。部屋でテレビを見たい人は、自由にしている。ただし、「コーヒーはどうですか」と声をかけると誘いに応じ、おいしくコーヒーを楽しんでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの特徴を理解し、具体的な介護計画が作成され、実施されている。家族の希望により、筋肉低下防止のためマッサージ師が週5回来て、トレーニングをされている利用者もいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6か月の見直しはもちろんのこと、変化が生じたときは、その都度話し合いをし、現状に即した新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じて、通院、墓参り、買い物など、柔軟に対応している。	○	今後、地域の人たちが来られるデイサービスを取り入れ、馴染みの関係を作れるよう考案中である。実現されることを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの馴染みの医師が、定期的に往診してくれている。緊急時の対応については、その都度、指示が得られるシステムができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期のケアについて、家族の希望により、対応する方針を全員で共有している。現在まで事例はないが、現在取り組んでいる利用者がいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうような言葉かけ、対応は見られず、プライバシーの確保ができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切に、希望に沿った支援がなされている。起床、就寝時間は個人を尊重し、朝食もそれに対応している。食事場所は部屋がいいという利用者は、部屋に届けている。夜中に風呂に入りたいというときにも、できるだけ対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者より納入、高齢者向けに魚の骨を抜いてくれており、非常に助かっている。時には、利用者の希望を聞き、献立を作り、独自で買い物をして対応している。昼食時に、利用者が何回もおいしいと言ったり、和やかなで満足した雰囲気を感じられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には決まっているが、できるだけ利用者の希望に応じている。夜中に入りたいという利用者にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽を聞いたり、回想法で昔のことを思い出している。例えば、「きね」の絵を見て、話題を膨らませたり、手芸の好きな人は、ボランティアの方と一緒に作ったり、また、元気な人は食器の後片づけを手伝う等、役割、楽しみの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園、神社への散歩、時には、買い物と一緒に出かけている。外出記録、買い物記録簿が整備されており、これを参考に、外出の声かけが実践されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	午後9時までは鍵をかけていない。利用者が中庭まで出て歩いているが、しばらくすると戻って来ている。もちろん、見守りはしている。決して連れ戻すことはしない方針で取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	特に、夜勤者は必ずマニュアルを確認し、自分なりにシミュレーションをしている。申し送りの中から、緊急連絡の必要な人を把握、確認して、勤務についている。ホーム内での対策は職員間でなされている。	○	今後は、定期的に火災、地震、水害の訓練について、消防署と連携を取り、専門家の指導を仰ぐ機会を持つことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量については、必要な人には、1日ペットボトル1本により、チェックしている。特に、好みの飲み物を提供し、コーヒー、ココア、お茶、紅茶等を選べるようにしている。昼食後のコーヒーが欲しい人に声をかけ、対応している。コーヒーが大好きと笑顔で飲んでいる姿に、好きなものは自ら摂取できるということがうかがえる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は自然木で建築されており、木のぬくもりが感じられ、天井は高くゆったりしている。食堂兼居間は椅子式になっており、横には和風の堀ゴタツ式があり、くつろげるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたダンスやテレビ等を入れている。また、ベッドの嫌いな利用者は畳で対応しており、本人の好みを尊重され、居心地よく過ごせるように配慮されている。		